第２回　福井県児童科学館
施設改善検討委員会

令和８年３月１８日
福井県

目次

１　第１回委員会の結果概要

２　基本的な考え方（案）について

・施設改善の基本的な考え方のポイント整理

・施設改善の基本的な考え方（案）

１　第１回委員会の結果概要

第１回　福井県児童科学館施設改善検討委員会の結果概要

１　**開催日時**：令和７年１０月２日(木)14:00～16：15

２　**場　　所**：福井県児童科学館２階コミュニティルーム

３　**構成委員**：

①	福井工業大学環境学部デザイン学科	教　授	三寺　潤	（都市デザイン）　※委員長
②	福井大学国際地域学部	准教授	粟原　知子	（遊び）
③	福井県立大学経済学部経済学科	准教授	石崎　琢也	（公共施設の管理運営）
④	福井県中学校教育研究会理科部会長		木本　茂	（科学）
⑤	科学コミュニケーター		本田　隆行	（展示）
⑥	一般財団法人福井県建築住宅センター	理事長	田中　忠範	（建築）

４　**議題および主な意見等**

＜屋内、屋外遊具の改善＞

・コロナ以降、遊びのオンライン化が進んでおり、どのように外の遊びに引き出すかを考えて屋内遊具の改善が必要

・ゾーニングをしないと身体の大きさが全然違うこどもが一緒に遊ぶことになり危険

・中高生向けの遊び場は少なく、防音室などダンスや音楽などの文化的要素も含め中高生のニーズを満たす部屋を考えても良い

・木製の屋根は維持管理が困難。道具は鉄製だと夏場暑くて使えないので避けるべき、素材は管理しやすいものがよい

・パニックになった子を落ち着かせるスペースがあると良い

＜スペースシアターの改善＞

・スペースシアターにもっとお金をかけてほしい。スペースシアターが立派になると大人も一度行ってみたいと思う。

・演劇や音楽を流したり、様々な利用ができる環境を作ることが大事であり、それがそのまま館のブランドの中核となる。

・座席は、前列をフラットにしてソファ席にするなど、ユーティリティのある空間にするのも一案。

・セーレンプラネットは駅前で利便性が良いという意見もあるが、車社会の福井では車で来られるエンゼルランドが良いという人もいる。エンゼルランドを選択できるよう、大人の心を動かすべき。

＜休憩・飲食スペースについて＞

・近隣に店舗ができてきているので、持ち込んで飲食ができるスペースを充実させるのが良い。

・屋内がリニューアルされると中の利用がさらに増えるので、屋内に飲食スペースを増やさなければ混雑を招く

・屋外の休憩スペースをしっかり屋根付きにしていくことに加えて、その時々の季節の快適さを感じられるようにすると良い。

・親が快適に飲食しながらゆっくり過ごせるかどうかが、こどもが長く遊べることにつながるという点は世界的に共通している。

＜館内設備の改善、安定した施設運営＞

・一旦作ってしまうと維持管理が発生してくるので、どの部分に優先して投資するか、整備する上での考え方を整理する必要がある。

・照明をはじめ建物全体の省エネ化設備の更新やトイレ、給排水管の関係など、今回を機会に建物全体をどこまで更新できるか、次の３０年に備えていくべき。

・神奈川県厚木市では、厚木市こども家族館と大学がアライアンスをとるだけでなくネーミングライツも活用している。

・施設レベルだけでなくアトラクションレベルでのネーミングライツもあり。

２　基本的な考え方（案）について

施設改善の基本的な考え方のポイント整理

第1回委員会結果をもとに、今後、設計を実施する上で、必要な各項目の考え方について整理

分野	主な意見	基本的な考え方のポイント
展示・遊具	**①屋内・屋外遊具の改善** ・ゾーニングを適切にし、安全に遊べる環境づくりが必要 ・木製は維持管理が困難であり、遊具等の素材は管理しやすいものがよい。 ・体を使って遊べるものがたくさんあるとよい ・パニックになった子を落ち着かせるスペースがあると良い	**〇子育て世帯が安心して遊べる機能を拡充** ⇒年代に応じて楽しく安全に遊べる環境づくりを推進 ⇒ こどもたちが体を使って外で思い切り遊べる大型複合遊具の設置を検討 ⇒ カームダウンスペースの設置を検討
展示・遊具	**②スペースシアター・展示エリアの改善** ・故障している物は修繕し、それを維持・改善すべき ・コンテンツが増えるほど体験人数が限られてしまうため新たな設備の導入には運用と併せた検討が必要 ・スペースシアターをはじめ宇宙関係設備は館の目玉。 ・演劇や音楽などで円形シアターを空間として活用すべき ・暗さと音楽と香りを提供するイベントを実施するなど、さまざまな利用ができる環境づくりが大事	**〇館の強みである「宇宙」をさらに充実** ⇒ 館の強みである「宇宙」を活用するとともに、本県の強みである「恐竜」を活用して展示内容等を充実 ⇒ 映像設備や座席等の更新や改修を検討 ⇒ 展示エリアの老朽化した設備の改修を検討 ⇒ 座席をリニューアルし、各種イベントが開催できる汎用性の高い設備に改修し、大人もこどもも楽しめる施設へ
設備	**③休憩・飲食スペースの充実** ・屋外の休憩スペースを屋根付きにしていく ・近隣に店舗ができているので、持ち込んで飲食ができるスペースを充実させるべき ・文化的要素も含め中高生のニーズを満たす部屋を考える。	**〇手ぶらで楽しめるように飲食・休憩スペースを充実** ⇒ 来場者の飲食・休憩スペースやこどもたちの様々な活動の場を充実
その他	**④安定した施設の運営** ・作ってしまうと維持管理費が発生するため、改修する優先順位の検討が必要 ・アトラクションレベルでもネーミングライツを検討 ・民間企業や教育機関との連携を進めるべき。	**〇民間資金を活用した持続的、効率的な運営を確保** ⇒ ネーミングライツの導入、企業や大学展示スペースの設置 ⇒ 限りある財源の中で、費用対効果を踏まえた改修に留意 **〇官民連携に加えて、他の児童館等と連携を強化し、「ふく育県」の取組みを発信**

福井県児童科学館　施設改善の基本的な考え方について（案）

＜目指す方向性＞
○こどもや保護者がより楽しく過ごせる児童科学館となるよう、利用者等の意見を踏まえて館の機能を拡充
○広域かつ多世代の交流人口拡大を図るため、県内の遊び場等をつなぐハブ機能を強化し、館の魅力を向上

＜施設改善における基本的な考え方＞
・老朽化した遊具の継続的な修繕や、民間資金を活用した持続的、効率的な運営確保を図りつつ、大きく3つのコンセプトに基づき、開館30周年を節目としたリニューアルを検討

①「ふく育県」のシンボル化、子育て世帯が安心して遊べる機能を拡充

こどもや子育て世代に寄り添う観点から、新たな設備の導入や子育てサポートの環境整備を推進
・来館するきっかけとなるような大型複合遊具等を導入しこどもの遊び場を屋内外に整備
・障がいの有無等分け隔てなく遊べるインクルーシブ遊具・館内設備を導入
・子育て世帯が手ぶらで来て楽しめるよう、飲食・休憩エリアを充実

インクルーシブ遊具
（イメージ）

②「宇宙」と「恐竜」コンテンツを充実

館の強みである宇宙関連の遊具や教育機能の強化に加え、本県が誇る恐竜関連の設備を追加導入
・美しい星空から演劇・音楽まで幅広い体験ができるプラネタリウムに刷新
・未来（宇宙）や過去(恐竜)への旅を疑似体験し、ワクワクできる大型アトラクションを導入
・「恐竜」をモチーフにした屋内遊具の導入、高度な科学に触れることができる展示内容に刷新
・県内大学との連携を強化し、公開講座や展示ブースの設置など、高度な科学に触れる機会を拡大

最新式のプラネタリウム
（イメージ）

③県内の児童館や遊び場をつなぐ拠点機能の強化

全国で唯一、２つの大型児童館を持つ強みを活かし、県内の児童館や遊び場等と連携した事業を拡充
・県内の児童厚生員の研修を充実させ、子育てや遊びの専門人材を育成する拠点としての機能を強化
・県内各市町の遊び場・公園情報の発信など、子育て環境の情報発信拠点としての機能強化
・県内の児童館、子育て支援センター等の児童福祉施設と連携し、イベント内容等をさらに充実

児童館フェスタの様子